非核・いしかわ

〒920-0848 金沢市京町 28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

2022 年 12 月 20 日　月刊第 293 号

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は 91 か国、批准は 68 か国（12 月 15 日現在）

1 面　戦争とメディア　須藤春夫
3 面　平和的な外交、対話こそ　玉城デニー
私たちの足元で起きていること　金平茂紀
4 面　ウクライナ危機の教訓と課題　川田忠明
4 面　平和のバトンを受け継ぐために　大田健志
5 面　映画「わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯」・県内上映運動の報告　尾西洋子
6 面　運動は不得手だが・・・　井沢宏夫
「国民の苦難軽減」が活動の要　一色眞一
7 面　60 年のバトンをこれからも　片岡紀子
＜独標＞川柳連作　喜多村貢
非核・平和の掲示板
8 面　石川の山めぐり　吉沢京子
絵手紙コーナー　竹味恭子

講演要旨

戦争とメディア

―本土に伝わらない琉球弧の軍事基地化―

戦争をさせない石川の会事務局長　須藤春夫

講演する須藤春夫さん

◆ほとんど報じぬ本土メディア

最大規模の日米共同軍事演習『キーン・ソード二三』が一一月一〇日から一九日まで実施されたにも拘らず、本土メディアはほとんど報じなかった。

その内容は、福岡の筑城基地から与那国空港への輸送、横田基地から嘉手納基地への地対空ミサイルの搬送、奄美駐屯地から普天間基地への搬送、四国沖での日米共同・対艦攻撃などの訓練である。米海兵隊オスプレイや自衛隊ヘリによる兵員や武器弾薬の輸送搬送、自衛隊の地対艦誘導弾や米軍の高機動ロケット砲などの訓練は、グレーゾーンから武力攻撃事態における一連の状況を想定したもの。自衛隊と米軍は、自衛隊の運用要領、日米共同対処要領を演練し、即応性、相互運用性の向上を図ったものであり、ますます一体化したと言える。

この大規模な演習は、特殊部隊の先制攻撃の訓練そのものであり、極めて危険。これをまともに報じないのは、本土メディアの役割放棄である。

沖縄タイムス一二月五日付によると、①日本政府は三一年度までに日本を狙う弾道ミサイルを迎撃する「弾道ミサイル防衛システム（ＢＭＤ）」（地上迎撃網）を強化するものとし、②中国からの攻撃に備える琉球弧諸島を重視し、沖縄県の六部隊（知念、勝連、白川、石垣、与那国）および鹿児島県の奄美大島にＢＭＤを配備し、③その結果、沖縄本島の航空自衛隊の四部隊と合わせて三倍近い一一部隊の態勢になり、④これを年内作成の国家防衛戦略などに盛り込む、という。併せて同紙は、政府は〝ＢＭＤだけでは防げない〟とし、〝敵基地攻撃能力を検討しているが、これだと元々の計画との整合性が問われる〟と批判している。

花鳥風月

防衛力強化のあり方を提起する「有識者会議」は岸田首相に報告書を提出し、専守防衛を転換して「軍事大国」へ向かわせている。これは社会保障削減と大増税による〝暮らしの破壊〟、九条と立憲主義の否定による〝憲法の破壊〟、「防衛」の名の先制攻撃に対する敵基地からの報復攻撃による〝平和の破壊〟への危険な道だ▼大軍拡は円急落の危険を増加させる。国民負担増は消費不況を引き起こし、金融正常化を遠ざける。円安は食糧エネルギー輸入国日本の物価高騰に直結する▼既にあらゆるものが翼賛化・産業報国化していると言っていいが、主権在民なのだからそれを正せるのは国民しかいない。民主主義の機能不全と言われて、国民として悔しくなければ偽物だ。かつて三一〇万人の墓標の前に平和と民主主義を誓った筈なのに▼その原因の一つは早い話が〝諦観〟。現実世界の変革向上を諦めてしまう日本国民の理想喪失症の蔓延ではなかろうか。この治療には知力と意志を前提にしたロゴスとエトスの相乗効果が必要である。自らの理想や夢に向かってひたむきに歩み続け、威張らず、媚びず、流されず、不屈性を自覚する人たちが希望である。ここを考え抜き、成しうることを為さねばならない。（中）

◆琉球弧諸島の軍事要塞化

そもそも陸上自衛隊第一五旅団は、那覇駐屯地に拠点を置き、琉球弧諸島の防衛を担う部隊である。防衛省は今、その増強を検討しており、実現すれば八千人（現在二千人）規模の隊員が常時行動する「師団」相当の組織として、軍事作戦を遂行することになる。一五旅団は一〇年度に発足しその後、与那国島、宮古島に駐屯地が発足している（来年三月には石垣島駐屯地が開設予定）。

この沖縄部隊の増強の意味は、「台湾有事」を想定した在沖米軍との連携強化であろう。軍事要塞化にとどまらず、自衛隊が米軍の〝先遣隊〟となる危険が高まることに他ならない。

◆宮古島の自衛隊

宮古島は隆起珊瑚礁の島で、山も川もなく、地下に水脈が流れ、国内でも数少ない「地下水汚染条例」がある世界でも稀有な〝水の島〟。地下水の汚染は島の命運に関わる。現在、①野原地区の航空自衛隊宮古島分屯基地、②千代田地区の陸上自衛隊宮古島駐屯地、③保良地区の陸上自衛隊訓練場、④同地区の宮古島海上保安庁射撃訓練場、⑤準天頂衛星みちびきの管制局、⑥宮古島隣接の伊良部島・長山港の海上保安庁基地、⑦宮古島隣接の下地島・下地島空港（軍事利用の可能性）、などが置かれている。

①は最新鋭の弾頭ミサイル対処機能が付加されたＦＰＳ７レーダーを設置し、強い電波を出すので健康被害が懸念され、携帯電話をも傍受するといわれる国際的傍受施設。地下室は隊員用の避難シェルターの可能性がある。②はゴルフ場跡地で、ウタキ（御嶽）という祈りの場が基地内に取り込まれている。問題未解決のままの工事強行や、住民には「造らない」と説明してきた弾薬庫が説明を覆して設置されたりするなど、数多くの問題が起きている。③は覆道式射撃訓練場や弾薬庫二棟があり、特に野外訓練場は異様に頑丈な構造で、隊員の避難シェルターの可能性がある。

◆宮古島の軍事化の特徴

①宮古島は、陸海空の三自衛隊プラス海上保安庁の基地が置かれ、先島諸島軍事化の中核に位置付けられる。

②基地門衛がライフル銃を所持して住民を敵視する姿勢が見られ、住民への周知なく一八歳を迎える住民名簿を自衛隊に提供するなど、宮古島の軍事化に反対する住民運動団体との軋轢が大きい。

③琉球新報は三月三一日付けで、陸上自衛隊が二〇年二月に実施した記者向け勉強会で配布した資料に「反戦デモ」はテロと同等と例示、と報道した。これらは本土メディアには少ない報道姿勢である。

◆石垣島の自衛隊

石垣島は先島諸島の中心に位置し、迅速な初動対応が可能な地理的優位性があり、琉球弧の軍事要塞化を完結させるための最後に残された空白地域。警備部隊、地対艦誘導弾部隊、中距離地対空誘導弾部隊、弾薬庫、覆道射場、訓練場などを有し、現在五七〇人規模。基地計画は元々なかったが、一六年九月に市議会与党が自衛隊配備を求める決議を提案し、それが可決して以降に事態が急速に、しかも不明朗な形で進んだ経緯がある。

◆石垣島の軍事化の特徴

①現市長の政治的立場が軍事化推進であり、中国との緊張関係を意図的に誘発する姿勢（尖閣諸島の字名を「登野城尖閣」、尖閣諸島の海上視察等）が顕著、②石垣島の基地建設により琉球弧の軍事要塞化が完成、③沖縄タイムス、琉球新報ともに沖縄島以外の離島での基地建設および反対運動の報道が不十分、④沖縄県での若者の自衛隊入隊の増加、等が挙げられる。

◆「台湾有事」～説明なき事態進行

石垣島での基地候補地住民投票運動は、署名大運動会、ＳＮＳ発信、那覇市での記者会見、地元ラジオ局への出演など、ユニークに進められている。しかし住民の直接請求に対して市長は、受け入れを表明した後に反対に転ずるなど、政治的圧力が窺われる。

中国に進出した台湾企業は一〇万社を超え、経済の一体化は大きく進んでおり、また米中は貿易・投資の両面で強く結びついている。日本にとっても両国は二大輸出相手国であり、日本政府が想定する「台湾有事」の実態は見えない。中国との間で懸念されるのは、尖閣諸島の領有権をめぐる海上警備の偶発的な衝突であり、それは戦争ではないし、戦争にしてはならない。

緊密な中台関係は中国発展の原動力であり、中国に台湾有事を起こす動きはない。米国は中国に対して自らの同盟国（とりわけ日本）に軍事的に対峙する態勢を築く必要から、戦略的に行動しているだけであろう。何のための防衛強化なのか、曖昧なまま危機感だけが醸成されているのであり、メディアはこれらの全体状況を見通す視点が欠落しているのではなかろうか。

（文責・非核いしかわ編集部）

◎一二月八日、近江町いちば館で開かれた「一二・八平和のつどい」の講演要旨です。

二〇二二年日本平和大会・オンライン開催

いまこそ、ゆるがぬ平和を世界と日本に

一一月二六～二七日

一一月二六日に開かれた日本平和大会・開会集会の玉城デニー沖縄県知事の連帯挨拶、ジャーナリストの金平茂紀氏のゲストスピーチ、国際シンポジウムのパネリストを務めた川田忠明氏の発言要旨を紹介します。

【連帯挨拶】平和的な外交、対話こそ

沖縄県知事　玉城デニー

玉城デニーさん

二〇二二年日本平和大会にご参加の皆様、オンラインで参加されている全国の皆様の沖縄県政へのご支援に厚くお礼申し上げます。先日、第七回世界ウチナーンチュ（沖縄人）大会が開かれました。

ウチナーンチュの皆様との強い絆、お互い助け合い、「命どぅ宝」を大切にする魂を未来につなげ、世界中から戦争の恐怖を一日も早く取り除くことができるよう対話と共存を求めるメッセージを発信しました。

私は平和と安定を図るためには、平和的な外交、対話による緊張緩和、信頼関係の構築が不可欠であると考えています。住民の生命、財産を守ることは国を含めて行政の義務であり、沖縄県知事としての最大の責務です。平和的な外交、対話に取り組むことこそが現実的な道だと確信しています。皆様の引き続きのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに二〇二二年日本平和大会が実り多いものになるようご期待申し上げます。

「いっぺー、にふぇーでーびる」（琉球言語）、誠にありがとうございます。

【ゲストスピーチ】私たちの足元で起きていること

ジャーナリスト　金平茂紀

金平茂紀さん

私はいま沖縄に来ています。陸上自衛隊の一六式機動戦闘車（ＭＣＶ）が南西諸島の与那国島の公道を四キロに渡って走行したことを「沖縄タイムス」一一月一八日付が大きく報道しています。これは「台湾有事」を想定した日米合同軍事演習です。沖縄のテレビや新聞は取り上げていますが、東京や大阪のメディアは全く報道していません。なぜ報道されないのか大変疑問だ。

二〇二二年はいろいろな意味でターニングポイントの年だと思います。一つは、二月二四日、ロシアによるウクライナ侵攻です。これにより世界の安全保障環境が様変わりしました。もう一つは、七月八日の安倍元首相の銃撃殺害事件です。これにより色々な意味でパンドラの箱が開きました。

ロシアによるウクライナ侵攻により、日本で元気になった人たちがいます。一つは、憲法改正を求める人たちです。お花畑のような憲法九条は一刻も早く変えなければならない、中国による「台湾有事」が起きるから日本は備えなければならないと軍事費増強を声高に叫ぶ人たちです。具体的にはＮＡＴＯ諸国の基準にもとづき軍事費をＧＤＰ比二％以上に引き上げること。もう一つは、「台湾有事」「尖閣有事」に備えるため南西諸島、琉球弧の軍事基地化が急ピッチで進められています。また年末までに国家安全保障戦略、防衛計画大綱、中期防衛力整備計画の「安保三文書」を改定して、日本の国是である「専守防衛」の考え方をかなぐり捨てて、敵基地攻撃能力の保有を既成事実化しようとしています。

ウクライナの問題については日本のメディアも比較的我が事のように報道しているが、私たちの足元で軍事費倍増や日米合同軍事演習が繰り返されるなど、いま南西諸島で起きていることが、なぜ日本のメディア全体で共有されないのか、その怒りを感じています。

平和大会の成功を祈っています。

【パネリストの発言より】
ウクライナ危機の教訓と課題

日本平和委員会常任理事　川田忠明

川田忠明さん

ロシアのウクライナへの武力侵攻は、国連憲章に違反する明白な侵略です。この事態を一刻も早く終わらせるカギは、国際社会の結束です。重要なことは、国の主権と領土の保全を国連憲章の擁護という点で団結することです。「侵略やめよ」「国連憲章まもれ」の国際的な世論を結束こそ、それを実現する力です。

ウクライナ危機の重大な教訓の一つは、日本やその周辺で、戦争を起さないことです。中国や北朝鮮への軍事優先の対応を抜本的に改めるべきです。有事を前提にした軍事優先政策ではなく、武力衝突を未然に防ぐ外交戦略の構築こそが求められています。

憲法九条の精神は生きている

今年七月、韓国の毎日経済新聞に二〇二一年実施の「世界価値観調査」が掲載されていました。「国のために戦いますか」という問いに、日本人が「はい」と答えた率は世界最低の一三％でした。日本人はなぜ戦争が嫌いなのか、なぜ戦わないのかについて毎日経済新聞は「平和憲法があり、九条が国民に意識されているから」と分析していました。ところが日本の右派系の産経新聞一一月一日付ではこの調査を取り上げて、自衛意識が育まれていない、日本の教育はおかしい、と危機感を露わにしていました。

確かに現在の情勢のもとで、日本国民の中に様々な不安や危機感があると思います。しかし、この状況を冷静にみて、日本国民の中に憲法九条の精神が生きていることに確信を持って、いま岸田政権が進めようとしている大軍拡、敵基地攻撃能力の保有、改憲を止める大運動を繰り広げること。そのために力を尽くしていきたいと思います。

2023年
北陸原水協学校 in 富山
オンライン開催
1月28日（土）14：00～16：30

笠井 晃衆院議員がウィーン宣言、広島宣言、ＮＰＴ再検討会議最終文書をふまえた国際情勢と日本の役割につき講演します。
＊同封の案内チラシを参照下さい。

地域教育研究所全国交流集会 in 石川
平和のバトンを受け継ぐために

平和の子ら委員会　大田健志

交流集会で報告する大田健志さん（左）

委員会の発足とＣＤ制作

一九九八年に金沢市卯辰山玉兎ヶ丘に建立された原爆犠牲者追悼碑「平和の子ら」像。その像が建立されてから二〇周年を迎えた二〇一八年。イメージソングである「平和の子ら」のシングルＣＤの制作計画が持ち上がり、石川県原爆被災者友の会会長（当時）の西本多美子氏、金森俊朗氏を代表として、同年一〇月にＣＤ「平和の子ら」委員会を結成。活発な議論の末、地元小学校等の助力も受けて、二〇一九年六月にＣＤ＆ブックレット「平和の子ら」が完成。県内の全ての小学校への寄贈も実現した。

岩佐幹三さんの紙芝居『戦いはまだ終わらない』づくり

その後、石川県原爆被災者友の会・初代会長で被団協代表委員も務められた岩佐幹三氏の人生を描いた紙芝居『戦いはまだ終わらない』の制作に取り掛かった。紙芝居は、同年一一月一五日に完成。県内マスコミ向けの完成発表会や「平和サークルむぎわらぼうし」例会での上演など宣伝活動にも尽力し、毎日新聞大阪版一面で紹介されるなど、マスコミの方々のおかげで紙芝居を全国に羽ばたかせることができた。

西本多美子さんの紙芝居『たみちゃんのノーモア・ヒロシマ（仮）』づくり

そして、現在、平和の子ら委員会が取り組んでいるのは、西本多美子氏の生涯を題材とした完全オリジナルの紙芝居づくりである。『戦いはまだ終わらない』完成後、月一回の会議が西

本氏の被爆証言を聴く会となり、半年近い丹念な聞き取りを経て、現在はシナリオの推敲段階に入っている。絵師も見つかり、完成への光が見えてきた。ぜひご期待いただきたい。

平和と社会と教育と

最後に、これまでの取り組みを経て得たものと課題について。大きな学びは三点。一つは、教育者、人に伝える者自身が学び続ける大切さ。人に正しく知識や思いを伝えるには、そのための工夫を常に模索する努力が必要になる。

二つに、CD制作や紙芝居制作そのものが「いのちの授業」の一環であったということである。歴史を紐解き、資料を読み込み、言葉を学び・・・。制作活動そのものが金森先生から与えられた「いのちの授業」であったと感じる。三つ目は、そのような学びを重ねる中で、誰もが「継承者」となれるということである。

一方、継承問題を取り巻く課題も山積している。被爆者の高齢化は進み、被爆・平和運動の「にない手」はだれか。

結論としては、先の三つ目に述べたように誰でも「継承者」になれる訳だが、その原動力となるのは、「被爆者と友達になる」ことである。教科書や歴史の中の出来事ではなく、身近な人の実体験として、今も続く問題として考えられるか。CD、紙芝居等を活用して、被爆者がいない時代に、被爆者と繋がる、被爆者の顔と声、温度を伝えられるツールをどう提供するかが継承運動の鍵であり、平和の子ら委員会の活動の意義はここにあると言える。〝平和な社会〟とは、充実した平和教育がなければ生まれない。教育から社会を、世界を変えていくために、できることを一緒に続けていきたい。

◎一一月一二日～一三日、近江町いちば館で開かれた地域教育研究所全国交流集会における活動報告です。

報告資料より、㊧岩佐幹三さん、㊨金森俊朗さん

映画「わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯」県内上映運動のお礼とご報告

尾西　洋子

県内上映は、五月二八日金沢での試写会を経て、九月一〇日の七尾市会場から九市二町の一三会場で一九回の上映を行いました。一〇九七人の方に鑑賞いただき一六五通の感想文を寄せていただきました。多くの皆さんのご協力に心から御礼申し上げます。

この映画は、ファシスト・プーチンのウクライナ侵略の中でそれと対峙して未来を拓こうとする多くの方々に今を生きる希望と闘いの展望を作り出していくうえで大きな役割を果たしたのではないでしょうか。

あきらめない生き方に希望がある、私が私を大切にして生きることのできる社会を共に生きよう！などたくさんの思いをいただきました。

今、岸田政権のトマホーク等常軌を逸した軍拡への大暴走！「敵基地攻撃能力」―軍事費を増やす道は暮らし破壊とセット、戦争への道です。

治安維持法成立から一〇〇年、二一世紀を真に人権と平和の世紀にするために、犠牲者に何の謝罪も賠償もしない国に対してこれでいいのかと問いつめる黄色の請願署名（戦争責任にけじめをつける―来年五月一七日、国会請願）運動に、新しく国賠同盟にご入会いただいたみなさんとともに、地域の支部の発足をすすめ新しい年につなげていきましょう。

（映画千代子石川の会会長）

11月23日、県立美術館ホールでの上映を終えて

非核石川の会リレーエッセー

運動は不得意だが・・

井沢宏夫

一六才の高校生時代に肺結核に罹り、当時「安静療養」が基本であったため二年間の療養所生活（サナトリウム）を送り、復学したが主治医の柿下正道先生に「運動は厳禁」と言い渡された。

体育の授業はすべて「見学」で過ごした。運動で汗をかいたり、息切れや動悸がする程走った記憶がない。歩くのも得意でなく、無意識に「三角形の一辺は二辺より短い」を意識し一辺を選んで歩いてきたようだ。

高齢になり、中学生の孫と話した時、「お爺ちゃんは、学生の時どんな運動をしていたの？」と聞く。孫は下手くそだそうだがバスケットボールの選手だった。「うむ！なに？」と一瞬たじろぐが、「例えば平和運動（うんどう）とかセツルメント運動（うんどう）とか、学生運動（うんどう）も少々・・」と答え笑われた。

中年になっても「社会との関わり合いの中」で生きたいと願い、生業の傍ら、医療や福祉制度改善運動や日本国憲法を守る運動の末端にしがみついてきた。生業は座業が中心であったので、毎朝二〇〇〇歩程の散歩をし、時には「ナンバ歩き」なども試したりしたが、一向に歩くのは楽しくならなかった。

七〇才代に至り、二〇一五年「安保法案廃案を求める石川県民大集会」が犀川河川敷で開催され、集会後、武蔵ケ辻までパレードした時、遂に旧大和前で腰が曲がり脚を前へ出せなくなり、落伍してしまった。年齢と共に、歩行時の前屈（腰が曲がる）がひどくなり歩きづらく、「パレードつきの講演会や集会」は遠慮するようになった。大勢の参加者がパレードへ出発するのを会場前で見送るのは、なんとも心苦しく後ろめたい気持ちに耐え難いものがある。

八〇才を越してからはコロナの自粛と加齢による前屈姿勢の進行は、懸命なストレッチ運動に拘わらず留まらない。

♪階段を手摺にすがりのぼるとき足でのぼれとあたまは命ず♫（竹山）

自分の心情をよく表す短歌である。階段をのぼる時には、口ずさむ。もう数年もするとこんな老人川柳が現実味を帯びる。

♪ペンギン歩き　こんど転べばあざらしだ♪（波多野）

「国民の苦難軽減」を活動の要として

一色眞一

昨年（二〇二一年）一〇月、皆様方の力強いご支援により、新後ゆき子市議の議席を引き継がせていただきました。ご支援いただいた皆様方には、あらためてお礼申し上げます。

憲法９条を守ろうと街頭宣伝

この一年を振り返りますと、一年があっという間に過ぎてしまった感があります。七二歳の新人議員、正直体力面で不安です。日々の運動不足を痛感しています。

さて、私は日本共産党の議員として、「国民の苦難軽減」を活動の要として、市民の声を市政に届けるべく活動しております。

特に心掛けているのは、毎回議会ごとに質問することです。市当局が提示する予算案に対して、常に「この予算、お金の使い方は市民にとってどうなのか」という視点で対応しています。しかし、当局の提示する予算案は、ともすると、市民負担につながるものもあれば、市民要求を満たしているものもあるなど、「清濁併せ呑む」ような議案が提示されることもあり、対応が難しいことがあります。こんな場合、周りの仲間に相談したり、関係機関のアドバイスを得て対処しています。

また、私はフェイスブックやツィッター、ホームページ開設と日々の活動の様子を投稿して、広くアピールすることを心掛けています。F・B友（フェイスブック繋がり）は、現在二〇六七人おりまして、北は北海道から南は沖縄までと全国におります。

こんなことがありました。私が昨年の市議会選挙に立候補するとフェイスブックでお知らせしたところ、北海道から「選挙カンパ」が届きましたし、長崎から「檄」の為書き（＊）が届きました。「こんなことってあるんや」と驚きつつも本当にうれしく思いました。それから数か月後、為書きをいただいた長崎の方の奥様が市議会選挙に出ることがわかり、今度は私が長崎の候補者にカンパを贈るなどフェイスブック上で素敵な交流が生まれ

ています。

今でもその方たちと交流が続いていますし、さらにその方たちの横の繋がりが生まれるなど交流の輪が広がっています。

【編集部注】為書きとは、選挙事務所に贈られる応援ポスターのことです。

六〇年のバトンをこれからも！

片岡紀子

新婦人は創立六〇年を迎えました。私が生きてきた年月より長く年を重ね、その間に多くの女性たちが要求実現運動に携わってきた。

親子企画「平和ってなぁに！」の一コマ

母もその一人。保育園創設や平和の行動など、多くの仲間と共に頑張ってきました。私が子どもの頃、母は夜でも会議で帰宅が遅い日もよくあったと思い出します。当時、いろいろな活動をしていた母の思いはあまりわかりませんでしたが、現在、私自身が子ども・孫の未来を思うと、母や先輩会員の活動の大切さを感じます。

四〇年以上前、私が通っていた中学校は四五人学級が一学年一五クラスでした。今では考えられないマンモス校でしたが、今の中学生より幸せだった気がします。校則に反抗する生徒も多かったけれど、そういう意思表示ができていたということ。今、子どもたちは統制されて、背を向けたい子どもは登校拒否になってしまうのだろうか。

八月の登校日には平和教育もあり、戦争の歴史に向き合う時間がありましたが、今では、八月六日が何の日かも知らない子どもたちも多い。金沢の教科書で学ぶ子どもたちは、戦争の歴史さえもねじ曲げられている。

平和や子どものしあわせのために力を合わせる、という新婦人の目的は、創立以来先輩会員の方々が六〇年つないできました。

今世界では、戦争が平穏な生活を一変させています。自国を守るため軍事費増大もやむを得ないという意見を聞くこともあります。そんなことを許したら、子どもたちの未来は守れません。平和を守り、子どもたち一人一人が大切にされる社会実現のため、新婦人のバトンをつないでいかなければと思います。

詩人会議かなざわ「独標」より

川柳連作

「指切りの指で少女が鶴を折る」

喜多村貢

千羽鶴掛けて子供食堂前を向く
看護師の輪が鶴を折る夜勤明け
あかぎれの手で折り鶴をする老婆
被災地へ送るエールの千羽鶴
反核の叫びを込めた千羽鶴
難民のキャンプへ日本の子の千羽鶴
貞子から受け継ぐ夢を折る少女
９条を楯におんなの千羽鶴
被爆者の周りを埋める千羽鶴
戦争の終わらぬ限り鶴を折る
熱帯夜眠れぬままに鶴を折る

編集室より

◎「今年の漢字」は〝戦〟だとか。元大統領ムヒカさんに言わせると人類は未だ前史のままだ。二二年はコロナ禍、ウクライナ侵略戦争、統一協会と政権の癒着、弔意強要の国葬、改憲派三分の二、学術会議人事介入、さらに経済産業省が原発運転期間最長六〇年規制の撤廃方針を出すとか、悪夢のような一年だった。まともな字が選ばれる筈がなかったけれど、二三年はこんな漢字はご免こうむりたい。（中）

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	行事予定	会場
1	1	日	10:00	核兵器廃絶 2022年元旦宣伝	金沢市尾山町・尾山神社前
	9	月・休日	14:00	非核の政府を求める会2023年新春シンポジウム	オンライン開催
	22	日	12:30	核兵器禁止条約発効2周年記念キャンペーン	金沢市武蔵町・金沢エムザ前
	26	木	14:00	平和団体 2022年新春のつどい	金沢市昭和町・平和と労働会館
	28	土	14:00	北陸原水協学校in富山／笠井 晃さん	オンライン開催
2	11	土	14:00	「建国記念の日」反対集会	金沢市青草町・近江町いちば館
	27	月	13:00	2023年3・1ビキニデー 日本原水協全国集会（～28日）	静岡市・静岡グランシップ
3	1	水	9:15	被災69年3・1ビキニデー 墓前行進・墓前祭	焼津市・JR焼津駅南口集合
	1	水	13:30	被災69年3・1ビキニデー集会	静岡市・静岡グランシップ

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中 年会費 2,000円

石川の山めぐり 24・最終回
白山のこと

吉沢 京子

石川の山めぐりは今号が最終回となりました。医王山から始まって、あっという間の二年でした。

私が初めて白山に登ったのは高校三年生の時で山岳部の先生が数十人を連れて行ってくれました。バスが谷川の橋を渡る時、乗客は降ろされバスだけが通過、これを何回も繰り返した記憶があります。

一日目室堂、二日目新岩間温泉山崎旅館に泊まり噴泉塔へ行き、自然の脅威を感じました。

それから白山へは何十回と登り、白山の魅力にとりつかれています。白山のお池巡りコースは噴火の火口池を巡ります。先ず宿泊地の室堂から早朝御来光を拝むため御前峰の頂上を目指します。運よく天候に恵まれて、北アルプスの峰々の間からお日様がキラッと顔をのぞかせた時、神主さんの音頭で万歳三唱が唱えられます。

眺望を堪能した後、火口池巡りです。ガレ場を歩き油ヶ池、紺屋ヶ池、翠（みどり）ヶ池、血の池、万年雪が見られる千蛇ヶ池、五色池、百姓池の七つの池をめぐり、イワツメクサ、イワギキョウ、クロユリ、白山コザクラ、ミヤマキンポウゲなどの花を愛でながら、室堂に戻ります。三時間ぐらいかけてゆっくり歩きたいです。

高山植物で印象に残っている花としては、砂防新道の甚之助小屋からすぐのキヌガサソウ。南竜ケ馬場へ向かう水平道あたりのシモツケソウ、イブキトラノオ、テガタチドリ。南竜ヶ馬場の白山コザクラ。室堂平のクロユリとコバイケイソウ。別山平のニッコウキスゲ。七倉山辺りの白山イチゲ。白山釈迦岳のオオサクラソウ、ホテイアツモリソウ。お花松原のクロユリ、白山コザクラなど枚挙にいとまがありません。

二四回にわたってお読みいただき本当に有難うございました。

白山頂上から見える紺屋ケ池

白山コザクラ

白山イチゲ

キヌガサソウ

黒百合群生

オオサクラソウ（白山釈迦岳付近にて）

白山で初めて見たカモシカ（南竜ケ馬場にて）

【編集室より】

○「石川の山めぐり 24・最終回」まで二年間拝見しました。吉沢さんには、読みごたえのある素晴らしい連載を有難うございました。

おもえば二年前の編集委員会で「石川の山並みを見て、山の名前をすべて知っている人は少ないだろう。それでは、わがまちを紹介することはできないので、ここは、日本の山を詳しく知っている吉沢京子さんに解説してもらったら」と提案。川本浩平さんが「よく知っているから」とお願いして頂き実現しました。「非核・いしかわ」にとっても素敵な連載でした。

（永山孝一）

○吉沢京子さんは今も毎週のように近隣の山を歩いておられます。昔のことですが数回連れていっていただきましたが無理のない山行で、山にも人にも優しい方です。

（川本浩平）

金沢医療生活協同組合絵手紙班　竹味恭子